

◇実践活動記録

ありがとう 地域の恵

－ 地域の特産物・食の恵を通した「ふるさと学習」の推進－



＜稲積梅の摘み取り＞
＜ねらい＞

＜ハトムギ栽培＞

＜みりん干し作り＞

比美乃江小学校区の人やもの（特に地域の食材や特産物）と積極的に関わることを通して豊かな感性を育むとともに、地域のことを知り、地域のよさに気づき、地域を好きになる子供を育てる。

目指す 子供像	・ <u>地域の自然や人々、社会、文化について興味をもち進んで学ぶ子供</u> ・ <u>地域のよさを発見し、愛着をもって地域に働きかける子供</u> ・ 友達と関わりながら追究し、考え、学んだことを表現する子供 ・ 自分のよさや成長に気づき、学んだことを生活につなげていく子供			
	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
	みりん干し	稲積梅	ハトムギ	寒ブリ（漁業）
内容（一学期・二学期・三学期）	「比美乃江のとおきを見付けよう」 （地域の自然、文化） ・ <u>みりん干し作り</u> ・ <u>見学と体験</u> ・ 氷見漁港探検 ・ 比美乃江公園や番屋街探検	「氷見の特産品を広めよう」 （地域の特産品 稲積梅） ・ <u>梅摘み体験</u> ・ <u>梅天日干し体験</u> ・ <u>梅の調べ活動</u> ・ 梅を使って	「地域の食について考えよう」 （地域のハトムギ） ・ <u>校区の食材についての調査</u> ・ <u>ハトムギ栽培</u> ・ 食料生産に関わる現状と問題点	「地域や学校のためにできることを考えよう」 （地域の人々に学ぶ） ・ 学校でできること ・ 地域でできること ・ <u>働く人に学ぶ</u> ・ <u>（漁業）</u> ・ 氷見の寒ブリを

学んだことをまとめて発信する

- ・ 「感謝の集い」や学年集会、授業参観等でお世話になった人々等と触れ合う。
- ・ 新聞や手紙にまとめ、互いによさを確かめ合う。
- ・ 「比美乃江大好きカレンダー」を作成し、地域に配布する。

<3年生 みりん干し>

ねらい：校区の自慢の品である「みりん干し」について学び、地域の特産物への興味関心を高めるとともに、そのよさが分かる。

「みりん干し」は、統合前の旧東小学校校区の特産物である。校区の水産加工場に協力をいただきいて実践した。

<甘くておいしかった>

<調べ活動と試食>

みりん干し作りを体験する前に、氷見市の郷土教材「ふるさと氷見」を活用して調べ活動を行った。また、実際に焼いて食べる体験をした。

「みりん干しを食べるとおいしくて甘いと思った」「食べてみると、焼き魚の感じがした」「どうして焼いたら甘くなるのかを聞きたい」「なぜこんなにおいしくなるのか、秘密を見付けたい」など、子供たちは、これから関わっていく地域の食材「みりん干し」への興味・関心を高めていた。



<みりん干し作り体験>

当日は、水産加工場で働いている方々や氷見高校の水産漁業科の生徒たちが教えてくださった。子供たちは、ぬるぬるとした手触りに戸惑いながらも、一つ一つ一生懸命に魚を開いていった。慣れてくると積極的に活動する子供が多くなり、笑顔が広がっていった。初めての体験を通して、みりん干し作りへの理解を深めるとともに、それらに携わる人々の思いや願いを感じ取ることができた。



<みりん干しのできるまで>



<一つ一つ
手開き>



<上手に開けるよう、がんばるよ>

<子供の感想>

- ・骨のある魚を手開きしてみて、作っている人の大変さが分かりました。1週間に2000枚も作るなんてすごいです。秘伝のたれがあることも知りました。おいしいみりん干しにするために工夫しているのだなと驚きました。
- ・お世話になったK水産さんが、江戸時代からみりん干しを作っていて、6代目と聞いてびっくりしました。昔からずっと大切に守られてきたことがわかりました。氷見の宝物だなと思いました。

＜みりん干しが届く：感謝の集会－みりん干しありがとう集会－＞

子供たちが開いたみりん干しが出来上がり、学校に届けられた。子供たちは、大喜びして、感謝の集会で学習したことをまとめて発表したり、感謝の気持ちを手紙や言葉にして届けたりした。みりん干しは、家へ持ち帰り、家族でおいしく味わった。



＜みりん干しありがとう集会で感謝を伝える子供たち＞

＜4年生 －稲積梅－＞

ねらい：稲積梅を中心に氷見の特産物について知り、それらに携わる人々の工夫や努力が分かる。

「稲積梅」は、統合前の旧稲積小学校区の特産物であり、統合前から学習活動に取り入れられてきた。校区の稲積好梅サークルの方々に協力をいただいて実践した。

＜稲積梅の摘み取り体験＞

6月に地域の梅林へ出かけて摘み取り体験をした。稲積好梅サークルの方々のお話を聞き、稲積梅の歴史を学んだ後、初めての体験に夢中になって取り組んだ子供たち。たくさんの青い梅の実を収穫して満足している様子が伺えた。



＜梅林で説明を聞く＞



＜稲積梅の摘み取り体験＞

＜子供の感想＞

- ・ 高い所の梅を摘むのは大変でした。手作業が多くて大変な仕事なのに、好梅サークルの人たちは、ずっと続けていてすごいと思いました。
- ・ 梅を摘んでから大きさごとに選別して使い分けたり、水の中であく抜きをしたりしておられました。稲積梅を守っている好梅サークルの人たちはたくさんの工夫をしているのだなと思いました。
- ・ 稲積梅を使ったいろいろな食べ物があることが分かって驚きました。

＜稲積梅の天日干し体験＞



7月には、天日干し体験を行った。子供たちは、梅の色が赤くなる秘密や天日干しをする理由を知るとともに、稲積梅を利用したいろいろな食品についても学んだ。このことを生かし、子供たちは、

お楽しみ会「梅ジュースで乾杯！」を企画した。稲積梅を使っておいしい梅ジュースを作り、みんなで楽しく味わった。

＜給食で味わい、稲積梅について調べたことを発表する＞

9月、赤く染まった稲積梅が出来上がり、稲積好梅サークルから大きな箱が届けられた。子供たちは大喜びであった。早速、給食時に、稲積梅について学んだことを放送で紹介し、「“地域の真っ赤な食の恵” 稲積梅」を全校児童で味わった。

＜5年生 ―ハトムギ―＞

ねらい：ハトムギを中心に氷見の食に関する現状や課題について知り、食料生産についての工夫や努力が分かる。

「ハトムギ」は、氷見市の特産物であり、校区に農場や加工場がある。「ひみハトムギ茶」や「ハトムギせんべい」として親しまれており、J A アグリ職員の方々に協力をいただいて実践した。

＜食料生産や氷見のハトムギについての調べ活動＞

氷見市の郷土教材「ふるさと氷見」を活用したり、実際に取材したりしてハトムギについて調べ活動を行った。氷見のハトムギは、ハトムギ茶やハトムギせんべい、ハトムギうどん、ハトムギ飲料、化粧品、健康食品等、様々な品物に活用されていることを知るとともに、ハトムギには「ヨクイニン」といわれる成分が含まれていて、熱を下げたり、痛みを和らげたり、いぼや肌荒れを治したりする効果があることを学び、子供たちは、とても驚いていた。

＜ハトムギの種まき体験＞



はじめに、氷見市でハトムギ栽培が盛んに行われるようになった経緯や生産、加工の工夫等についてJ A アグリ職員の方に教えていただいた。次に、校区

の農場でハトムギの種まきをした。種まきでは、秋の収穫を楽しみにしながら、丁寧に取り組んでいる子供たちの姿が見られた。

<ハトムギ加工見学と焙煎・ハトムギ茶作り>

秋には収穫したハトムギを乾燥させて焙煎し、さらに細かくくだいてお茶にするまでの工程を学んだ。子供たちは、大きな機械で乾燥させたり、石を取り除く機械にかけたり、重さで良い状態か悪い状態かを決めたりする作業を見学し、時間をかけて加工されていることを実感していた。また、ハトムギがお茶になるまでの乾燥、選別、焙煎、粉碎等の過程を熱心に見学し、JAアグリ職員の方に積極的に質問する姿が見られた。



<大きな機械で乾燥させる>

実際にティーパックを使ったハトムギ茶作りを体験では、できたての香ばしいハトムギ茶を味わいながら、ハトムギへの愛着を深めていた。

<ハトムギ茶作り体験>



<子供の感想>

- ・ハトムギがインドから伝わったことや、たくさんの栄養があること、氷見市がかつて作付け面積1位だったことを知りました。ビタミンやミネラルが豊富で、疲労の回復や肌荒れ防止、いぼを取る効果があることが分かり、ハトムギは、本当にすごい物だと思いました。

<6年生 ー氷見の寒ブリー>

ねらい：地域の人々の生き方に学ぶとともに（その中で寒ブリについて学ぶ）、学校や地域をよくするための方策を知り、自分たちの役割が分かる。

本校の校区には、富山県屈指の氷見漁港がある。「氷見のブリを知ろう体験」は、地元の水産業に携わる方々や市役所水産振興課の協力を得て実践した。

<氷見の寒ブリを知ろう>

子供たちは、見事な包丁さばきに見とれながら、寒ブリ漁に対する地域の方々の熱い思いを知り、その生き方に学んだ。また、実際に新鮮な寒ブリを味わいながら、寒ブリについての理解を深め、氷見の自慢であることを感じ取っていた。



<氷見の自慢の寒ブリ>

＜給食時の放送＞

給食時に、みりん干しや稲積梅、ハトムギ、ブリをはじめとする氷見の魚等の食材について、学んだことをタイムリーに発表している。子供たちは、地域の豊かな食の恵を実際に味わいながら、興味・関心を高めている。

＜感謝の集い＞

お世話になった方々を招いて、感謝の集いを開催する。（2月14日予定）
現在、子供たちは、感謝の気持ちを伝えようと、手紙や「比美乃江大好きカレンダー」、出し物やクラブ活動発表等の準備に取り組んでいるところである。

＜「比美乃江大好きカレンダー」を作成し、校区に配布＞

ふるさとに学んだ写真を掲載した「比美乃江大好きカレンダー」に、子供たちが感謝のメッセージを記入して渡す予定である。このことを通して、保護者や地域住民の比美乃江小学校の教育活動や比美乃江校区に対する関心をより一層高めていきたいと考えている。

子供たちがメッセージを記入する。

地域の食の恵を通したふるさと学習から、子供たちは地域の人やもの、自然と関わり、実感を伴いながら地域への愛着と誇りを育んでいくことができたと考える。また、子供たちだけでなく、保護者や地域の人々の、学校の教育活動や比美乃江校区への関心を高めることができたと考える。

今後もこれらの活動を継続していくことにより、地域への愛着を育み、地域を大切に思い、将来的に地域に貢献できる人材の育成を目指したい。



「比美乃江大好きカレンダー」
メッセージを添えて、地域の方々に配布する。